

北九州市卸売市場経営展望（素案） 概要版

策定の趣旨 卸売市場を取り巻く環境は、少子高齢化、消費者ニーズの多様化など大きな変化が続く中、卸売市場は、引き続き市民へ安定的な生鮮食料品等を供給する使命を果たす必要がある。一方、平成28年1月に農林水産省が公表した「第10次卸売市場整備基本方針」において、卸売市場の経営戦略の確立が求められている。そこで、開設者及び市場関係業者が一体となって、今後の市場運営の方針等を定めた「北九州市卸売市場経営展望」を策定するもの。

市民への安定的で安全・安心な供給体制

- 市民への安定的な供給体制
 - 取扱量 青果部 16万t(約600t/日)、水産物部 1万7千t(約60t/日)
 - 市内供給率 青果部 94.2%、水産物部 35.6%
- 安全・安心な生鮮食料品の検査体制（市場内に設置された食品衛生検査所の役割）

市内経済への影響

- 北九州市卸売市場の経済波及効果
 - 市場取扱高 約547億円、従業者数 1,517人
 - 経済波及効果 約1,616億円、雇用誘発者数 7,560人
- 市内生産者、売買参加者等への貢献

【青果部】

目指すべき姿

本市場の独自性と強みを活かすことにより、出荷者要望と消費者ニーズに応える柔軟性を持った活気ある市場
～平成33年目標値 17万トン以上～

【水産物部】

目指すべき姿

北九州 200万人都市圏の食を支え、文化を育む市場
～平成33年目標値 1万6千トン～

基本戦略と行動計画

I 恵まれた物流拠点を活かした大規模な集荷・分荷機能の強化

- 遠隔地や大型産地からの大規模な集荷力の強化と産地開発
- 広域的な販売力の強化

IV 効率的な施設整備による流通機能の充実と持続可能な体制の構築

- 効率的な物流に即した施設整備
- バリアフリーに配慮した場内施設の整備
- 取引情報共有化システムの構築

基本戦略と行動計画

I 安全・安心で安定的な水産物の供給

- 地方卸売市場であることのメリットの理解と市場経由率の向上
- 原産地表示等の徹底
- 運営・取引ルールの明確化と徹底

III 市場発水産物のブランド力向上

- 地魚のブランド力向上
- 北九州市公設地方卸売市場の付加価値化
- 鮮魚店や飲食店等へのリテールサポート

II 近郊産地との連携による魅力ある生産物の集荷・販売

- 近郊産地との連携強化による商品開発と出荷促進
- 市場流通青果物のブランド化の推進

V 北九州市の食文化等への貢献と市場理解の醸成

- 北九州市民の食文化の継承と、食育活動の推進
- 市場流通青果物のPR活動の充実

II 競争力向上のための施設整備

- コールドチェーン整備の検討
- 活魚水槽及び活魚売場の機能強化

IV 魚食文化の継承

- 魚食普及活動の拡充
- 市民感謝デーの継続と効果的活用

III 効果的な鮮度管理による新鮮で安全・安心な食材の提供

- 効率的かつ将来を見越したコールドチェーン整備の検討
- 市場流通青果物の安全性の周知と強化

共同して市場全体で取り組む事項

- 市場情報の積極的な受発信・PR
- 北九州市民の食文化・魚食文化の継承と、食育活動の推進
- 食品衛生管理の充実 ■環境問題への対応 ■災害時の対応

今後の再整備の方向性について

最小経費で最大効果を得るため、必要不可欠となる高機能・品質管理高度化へ対応、かつ施設使用料を抑制したコンパクトな市場を目指す。

- 施設整備の事業手法・市場の管理・運営体制
- 整備計画
- 土地利用のあり方